

## うしのこぶち

昔々お米のとれる田んぼをもっと広げてたくさんのお米をつくりたいなあ！と皆が思っていた頃の事です。

中佐エ門さんの住む新庄の土居という所は竹藪に囲まれた広い原っぱのある土地でした。

しかし、竹藪の下を流れている可愛川の水がずっと低い所を流れているので水を引いてきて田んぼを作ることができませんでした。



そこで村の人たちは毎晩中佐エ門さんの家に集まって相談を始めました。

『なんとかしてこの荒れた土居の原に水を引いてくることはできんもんですかのう』

『そうですのう、あの広い原っぱに水がひけたらたくさんお米が取れるようになるでしょうがのう』

『何かいい知恵はないかいのう』

皆の考えがとうとうまとまりました。宮迫川の水を龍山の北側から広い原っぱに引いてくるのです。

いよいよ仕事に取りかかることになりました。しかしそこは崖っぷちで下を見るとゴーゴー渦巻いている深い淵なのです。

この工事は思ったよりとても難しく仕事をする人達の頭の上には岩山がそそり立ち、足元の崖下を見ると足でも踏み外そうものなら淵へ落ちて助かりそうもありません。だから、工事はなかなか進みません。

この龍山へ水を引く仕事が始まってから冬が過ぎて春がきて夏が過ぎてとうとう3度目の夏がやってきましたが崖から落ちて死ぬ人や怪我をする人達が増えるばかりで仕事はちっともはかどりません。



中佐エ門さんは村の家を一軒一軒まわって

『お願いですけえもうひとがんばりやっってはくださらんか』と頼みますが

『どうかこらえてください。どうかこらえてください』という人ばかりで、だんだん仕事に出る人はいなくなってしまいました。



そのうちに村の人達の間では誰言うとはなく

『こんなに沢山の人が淵に落ちて死ぬるのは、きっと水の神様が怒っていなさるのじゃ。それなら人柱をたてて水の底に沈めにゃいけまい』

という事になりましたが、村の誰に人柱になってもらうのかなかなか決めることができません。さあ、大変な事になりました。人柱というのは家の柱や電柱ではないのです。生きている人を水の底に沈める事なのです。そうしないと水の神様が淵の底であばれて工事がいつになっても完成しないと云うのです。



人柱を誰にするのかなかなか決まりません。そこで、龍山八幡さまの神主さんは暗い闇夜の晩に白い羽のついた大きな矢を空へ向かって『パシッ』と放ちました。

この大きい矢が刺さった家の女の子が人柱になるのです。

矢はヒュルヒュルっと真っ暗い空を天高く飛んでいきました。

やがてその矢は寝静まった一軒の家の屋根に『プスリ』と突き刺さりました。さあ、白い羽の矢は誰の家の屋根に突き刺さったのでしょうか。

それはハルさんというとても可愛い女の子のいる与平さんの家でした。

かわいそうに、これでハルさんが人柱にたてられることに決まったのです。ハルさんの家の人達も村の人々もたいそう悲しみました。しかし、ハルさんはそのわけを聞くと村の人々のために自分が人柱になろうと心に決めたのです。





いよいよハルさんが人柱になって淵に沈められる日がやってきました。真っ白い着物を着たかわいらしいハルさんが赤い布だすきで飾った仔牛の背に乗せられています。ハルさんは涙一つ流しません。村の人達はそのハルさんの姿を見て

『かわいそうに かわいそうに！』と嘆き悲しんでいます。そのうちにハルさんが水の中に連れて行かれる合図の鐘が『カーンカーン』と打ち鳴らされました。

いよいよハルさんが人柱になって淵に沈められる日がやってきました。真っ白い着物を着たかわいらしいハルさんが赤い布だすきで飾った仔牛の背に乗せられています。ハルさんは涙一つ流しません。村の人達はそのハルさんの姿を見て

『かわいそうに かわいそうに！』と嘆き悲しんでいます。そのうちにハルさんが水の中に連れて行かれる合図の鐘が『カーンカーン』と打ち鳴らされました。



その時です。たまりかねた中佐エ門さんが飛び出してきました。

『龍山八幡さまよ、どうかお聞きください。これで私達の真心は水の神様にも届いたはずじゃ。人の命はとても大切なもんです。ハルの代わりにその仔牛を沈めます。どうか、この仔牛の命をハルの命と引き換えにしてください！』と大きな声で叫びました。それを聞いた人々も

『龍山八幡さま、どうかお願いじゃ。ハルさんの命を助けてやって下され』と口々に叫んで一心にお祈りをしました。



やがてハルさんは中佐エ門さんの手で仔牛の背から抱き下ろされました。



そしてハルさんの身代わりに赤い布だすきで飾られた仔牛だけがみんなが手を合わせお祈りをする中を川の中へ引かれて淵の底へ深く沈んでいきました。

ハルさんの命の代わりに仔牛の命が水の神さまのたたりを鎮めるために捧げられたのです。

それからというもの、崖崩れも起こらなくなり、崖から落ちて死ぬる人もけがをする人も無くなりました。工事はどんどんはかどり

立派な溝ができあがりました。(ばんざいばんざい)

そうして土居の荒れ地に水が引かれ広い田んぼには稲がスクスクと育ってお米が沢山取れる豊かな村になりました。ハルさんの身代わりになって淵に沈められた仔牛のことを思ってここを『牛の小淵』と呼ぶようになったといいます。



イラスト：おおあさ町みんなの会